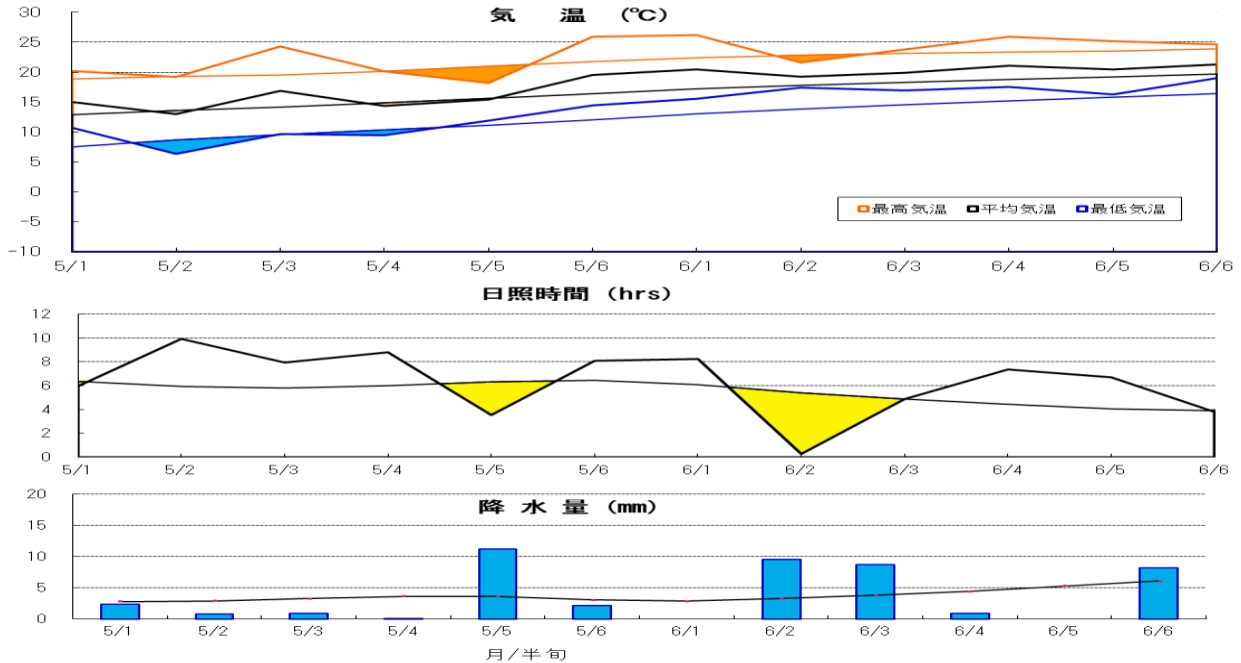


稲作情報 8 号

気温高めでやや多雨，草丈長く，茎数多め，生育は 4～5 日進んでいる。！

1 気象経過



図－1 平成 26 年産水稻田植後の気象経過 (アメダス古川 半旬別)

- (1) 6 月の気温は，最高・最低・平均気温とも高めに経過した。
- (2) 6 月の日照時間は，入梅直後を除き，多照に経過した。(平年比 109%)
- (3) 6 月の降水量は，やや多く (平年比 106%)，時に強い雨がある不安定な気象となった。

2 今後の気象予報

(1) 週間天気予報 (7 月 3 日～7 月 9 日)

- ・ 北部は高気圧に覆われて概ね晴れますが，南部は気圧の谷や湿った気流の影響で曇りの所が多いでしょう。
- ・ 最高気温は平年並か平年より高い見込みです。最低気温は平年より高いでしょう。

(2) 1 か月の天候予報 (6 月 28 日～7 月 27 日)

- ・ 平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
 - ・ 降水量は，平年並または多い確率ともに 40%，日照時間は，平年並または少ない確率ともに 40%
- [次回 1 か月予報公表：7 月 3 日]

(3) 東北地方 3 か月予報 (7 月～9 月) 平成 26 年 6 月 25 日発表

- ・ この期間の降水量は，平年並か多い確率ともに 40%です。
- ・ 7 月 平年に比べ曇りや雨の日が多く，降水量は平年並か多い確率ともに 40%です。
- ・ 8 月 天気は数日の周期で変わる見込みです。
- ・ 9 月 太平洋側では，平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

[次回 3 か月予報公表：7 月 25 日]

- ◆6月26日「沖縄地方は梅雨明けしたと見られる」と発表（+3日遅い梅雨明け）
- ◆九州～本州で梅雨が本格化し、梅雨の後半は例年大雨などによる被害がでる時期で一層、雨による災害に注意が必要である。
- ◆今年の梅雨期間の雨量は、地域によってメリハリが大きく、注意が必要である。
- ◆当初、気象庁は「エルニーニョ現象」が発生し冷夏の傾向と予想していたが、今回の3ヶ月予報では、季節の進みはほぼ平年並で、天気はすっきりしない見込みである。

3 生育状況

- ・水稻の生育は良好であり、気温が平年より高く推移していることから、平年に比べて4～5日程度進んでいる。生育の早いものでは、幼穂(0.1～2mm)が確認されている。

〔参考〕★極早生品種「五百川」は、まもなく減数分裂期

★古試の幼形期 平年値 5月1日植：7月7日 5月10日植：7月10日

- ・平年に比較して茎数は多く、草丈は長くなっている。県全体平均で草丈が52.9cm(平年比109%)、1㎡当たりの茎数は597本(平年比111%)、葉数は10.2枚(平年差+0.5枚%)となっている。
- ・主稈葉数は、10.2枚(平年差+0.5枚)で平年より+0.5枚進んでいる。
- ・葉色(GM値)は、平年並みからやや淡く県平均で40.7であった。

表－1 県内の水稻生育状況（宮城県7月1日調査）

a. 県全体

県全体	草 丈			茎 数			葉 数			葉緑素計(GM)値		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本 年	前年差	平年差
	52.9	100	109	597	112	111	10.2	0.3	0.5	40.7	1.4	▲ 0.2

b. 品種別

品種別	草 丈			茎 数			葉 数			葉緑素計(GM)値		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本 年	前年差	平年差
ひとめぼれ	52.7	99	107	584	110	111	10.1	0.2	0.5	40.6	1.3	▲ 0.4
ササニシキ	51.6	105	114	632	114	114	10.3	0.6	0.7	40.5	1.3	▲ 0.3
まなむすめ	56.5	97	103	602	120	109	10.3	0.1	0.8	42.1	2.6	0.8

※平年比：前5ヶ年（平成21年～25年）の平均値との比較

※葉緑素計(GM)値：葉に含まれている葉緑素(クロロフィル)量の測定値で、栄養状態を把握するもの。



図－2 極早生品種「五百川」（桃生）

乾田直播栽培（鳴瀬）

4 今後の管理

(1) 水管理

- ・ 県内のほとんどの水田圃場は、必要な茎数(400~500本/m²)を確保している。
- ・ 今後の天候は、曇りの日が多く、やや降水量が多いと予想されており、十分な中干しや溝切りを実施する。
- ・ 中干し終了後、急激な還元状態とならないよう、走水程度とし根傷みを防ぐ。
- ・ 7月の中旬に入ると、県内の水田は低温に弱い「幼穂形成期」や下旬には「減数分裂期」入るので、週間天気予報を見ながら、低温が予想される場合は、速やかに深水管理（前歴深水、減分期深水）の出来るよう準備しておくことが必要である。（近年7月下旬に低温が頻発 図-3）

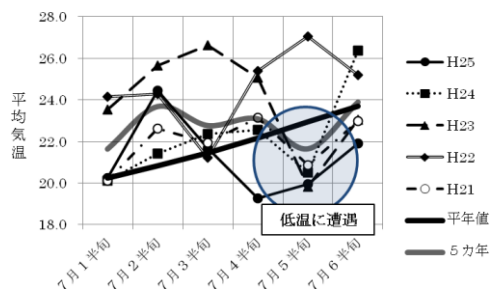


図-3 (H21~H25までの7月の平均気温)

(2) 葉いもち

- ・ 発生開始期は、平年並の7月第1半旬頃と思われ、発生量は「やや多い」と予想されている。
- ・ 残苗における葉いもちの発生地点率はやや高く、感染好適日が広域的に出現している。
- ・ 予報では、平均気温が20~25℃で推移し、曇りや雨の日が多いことや草丈が長めに推移していることから、本田をこまめに見回る。

表-2 アメダス資料による葉いもちの感染好適日の推定 (BLASTAM)

月日・地区	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	桃生	大衡	鹿島台	栗松島	石巻	女川	新川	塩釜	江ノ島	仙台	名取	白石	蔵王	亘理	丸森	
6月18日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	△	●	●	-	●	-	-	-
6月19日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月20日	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月21日	-	-	-	△	●	△	△	△	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月24日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月25日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月26日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月27日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月28日	○	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月29日	△	△	●	●	●	-	△	●	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

●好適条件
○準好適条件1
△準好適条件1
-好適条件なし



図-4 本田の葉いもち発生例 (右は進行型)

(3) カメムシ防除

- ・ 水田周辺の斑点米カメムシ類の密度を低くするため、牧草の刈取りや雑草地の草刈りは、7月中旬までに実施する。水田畦畔の草刈りは、水稻の出穂10日前までに終える。